

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業改良普及費

事業名 新たなブランド育成支援事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 普及企画係 電話番号：058-272-1111 (内 2844)

E-mail： c11419@pref.lg.jp

1 事業費 5,300千円 (前年度予算額：6,769千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,769	0	0	0	0	0	0	0	6,769
要求額	5,300	0	0	0	0	0	0	0	5,300
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「トマト」「ほうれんそう」「えだまめ」といった県のリーディング品目に続く、新たな売れる農産物の創出が必要である。また、一層の国際化が進む中で安い輸入農産物の増加により価格競争の激化が懸念され、魅力ある地域独自のブランド化が求められている。

(2) 事業内容

i 目的

普及指導員が中心となって地域にある自然・文化・人材といった資源を活かし、学校や企業など農業関係者以外とのコラボレーションを展開して、加工品づくりやイベントを結び付け、消費者に選ばれる新たなブランド創出の支援や、産地の持続的発展につなげる。

ii 概要

- ・組織化の推進及び組織体制の強化
- ・新規栽培者の確保
- ・新技術・新品目導入に向けた実証ほの設置・調査等
- ・栽培技術の確立、栽培マニュアルの策定等

- ・ 6次産業化・販路開拓の支援
- ・ 新たなブランド創出及び産地の持続的発展につながる支援

iii 目標

ブランド化の推進（「清流長良川の恵みの逸品」への登録、GAP取得、6次化商品認証等）

新たな担い手の育成・確保（新規就農者、定年帰農者など多様な担い手）

（3）県負担・補助率の考え方

新たな産地づくりは、ぎふ農業農村基本計画に位置付けられており、農業の振興に必要であるため、県が費用を出して事業を実施する。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
新たなブランド育成支援事業		
報償費	140	講習会講師謝礼
旅費	834	巡回指導、先進事例調査等
需用費	1,902	実証ほ設置に係る資材、マニュアル作成等
役務費	854	通信運搬費、土壌分析・品質分析等
使用料	450	視察バスや会場借上、ETC利用料等
負担金	120	研究会等への参加負担金
合計	4,300	
新たなブランド育成支援事業（維持管理）		
需用費	1,000	公用車燃料

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想、ぎふ農業・農村基本計画

（2）国・他県の状況

複数の都道府県で、新たなブランドづくりに向けた事業が展開されている。

（3）後年度の財源負担

事業は、3年計画のため継続が必要である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
ブランド化の推進や産地の持続的発展の支援を行う。
また、産地発展のため担い手の育成・確保を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
対象品目のブランド化 <small>（販売額目標達成品目数）</small>	0 <small>（R1）</small>	<small>（H ）</small>	<small>（H ）</small>	0 <small>（R2）</small>	10 <small>（R4）</small>	% 0

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
各地域の重点品目を10品目設定し、学校や企業など農業関係機関以外と幅広く連携した取り組みを実施した。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
加工品づくりやイベントなどとコラボレーションした消費者に選ばれる新たなブランドの創出・育成を支援しており、「トマト」や「ほうれんそう」「えだまめ」といった県のリーディング品目に続く、新たな売れる農産物にまで育成する。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かした新たなブランド品目の育成は、地域活性化につながるため事業の必要性が高い。 ・新たなブランド品目の育成には、栽培技術と地域連携が重要であり、普及指導員が中心となり進める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始1年目であり指標に対する結果も出ていないため、事業の有効性についての判断は、今後の成果による。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな品目を育成するうえで、地域の特性を活かしており、効率的である。地域活性化につながるため、事業効果も高い。 ・段階的に目標を設定しており、地域にあった取り組みができています。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業計画に基づき、関係機関が連携しながらブランドづくりを推進する。特に販売推進に向けては、加工品づくりやイベント参加などの支援を推進する。
--